

伊賀市社会事業協会

2010

2010年7月15日 第20号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL:0595-21-5545

FAX:0595-23-6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

祖国を追われた人々

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

会長 森下 達也

回想シリーズのつづきであるが、この度は白系ロシア人という哀しい人たちのことを書いておきたい。旧満州での私の一家にとつてかなり身近な存在だったのである。過日数人の男子大学生グループに、「白系ロシア人とはどういう人たちを指すのか知っているか」と訊ねたところ、一人も答えられなかった。では「スタルヒンは」と訊ねたら、ロシア人の大投手で日本のプロ野球で活躍し、旭川の球場にはスタルヒン球場という名が付いていることなど、おおよそ知っていた。然う、ヴィクトル・スタルヒンは、ロシア革命に際しての亡命者だから、日本では白系ロシア人とよぶのである。

スタルヒンは一九一六年生まれ、父親コンスタンチンはロマノフ王朝の貴族であり将校でもあったから、一九一七年のロシア革命に際し、一家の生きのびる道は国外脱出しかなかった。幼いスタルヒンを連れて死と隣り合わせのシベリア横断の末、ハルビンに辿り着き、一九二五年漸く日本へ亡命したのであった。スタルヒンは日本プロ野球界で成功し通算三百三勝八十三完封（歴代一位）という記録を打ち立てる。だが四十歳の若さで交通事故死、最後まで日本の国籍をもらえなかったが日本を愛していたという。

つまり白系ロシア人とは、一九一七年の十月革命後ソビエト政権と相容れずに祖国を逃れたロシア人の総称である。白ロシアとよばれるベラルーシ共和国があるが関係はない。赤軍（革命軍）に抗戦した人たちを白軍（白衛軍）とよんだため、日本では白系ロシア人という言い方が定着したのだ。しかし帝政にかかわった人たちの殆どが迫害されたから、国外脱出者の数はほとんど膨れ上がった。更に革命過程でボリシェビキ（ソ連共産党）の一党独裁路線に敗れたメンシェビキの中にも逃避する者があって、亡命総数は旧満鉄の調査によれば約二百五十万にのぼるといふ。二百五十万のロシア人が旧満州、日本、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリアなど、世界各地に散って行ったのである。

さて私は昭和六年大連生まれ、横浜正金銀行に勤める父の転勤で大陸各地を移り住んだが、何時も白系ロシア人が近くにいた。白系ロシア人の母親と幼い娘の二人家族をわが家に同居させたこともある。母親が外出する時は、私の母が幼い娘を預って面倒をみていたものだ。最後に住んだわが家は大連市南山麓楓町（今は楓林街）にあったが、この家の周囲には比較的めぐまれた白系ロシア人の家庭が多かった。筋むかいは、二人の少女のいる一家で、レコードの音が道をこえて時々ながれてきた。その曲は何時もきままって、ワルツ「ドナウ河のさざなみ」であった。道で会釈を交わす位であったが何となく暗く哀しい気配を身にまとった人たちであることに気付いていた。彼らが国のない人たちであることは知っていたが、その心の中の怯えまで推し量る力は、少年の私になかったのである。

昭和二十年八月、大連市もソ連軍機甲部隊に占領された。白系ロシア人の多くがソ連政治警察の取り調べを受け、その一部は処刑されたと聞く。私の、同窓生N君の父親は逮捕されず銃殺された。N君の母親は日本人であるが、父親は白系ロシア人であった。或いは白衛軍の戦士だったのかもしれない。今、私たちの社会福祉法人の理事に、工学博士表雄一氏がいる。彼は、大連の小学校中学校何れも私と同級で、今は畏友である。悲劇のN君の家は、表君の家の近くにあった。人生は互いに不思議な糸で結ばれているようだ。スタルヒン一家のように、必死に、日本に助けを求めた亡命者が沢山いたという時代へ、時には思いを馳せてみようではないか。

（三重県社会福祉協議会会長）



—記憶の中の風景『竹馬』—
松田昇写真集『風土記』より



ほっとひといき

春の陽気が清々しい日、『芭蕉の森ふるさと公園』まで散歩に行きました。道中には菜の花が鮮やかに咲き、八重桜、ミヤマツツジ等の花々が優しく春を告げていました。公園に着いてからは、自然の中で俳句を詠む方、童心に返ってブランコを漕ぐ方など、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

気候の良い時期に、季節の移り変わ

自然散策 — 優しい陽射しに包まれて —

盲養護老人ホーム梨ノ木園

梨ノ木園では、春と秋の心地よい時期を選んで、外出支援ボランティアグループ「ミックスジュース」の皆様にご協力いただき、施設周辺の散歩に行きます。

春の陽気が清々しい日、『芭蕉の森ふるさと公園』まで散歩に行きました。道中には菜の花が鮮やかに咲き、八重桜、ミヤマツツジ等の花々が優しく春を告げていました。公園に着いてからは、自然の中で俳句を詠む方、童心に返ってブランコを漕ぐ方など、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

りを肌で感じながらの散歩は、ご利用者の方々に大変喜ばれています。ご奉仕をいただいているミックスジュースの皆様にも、心より厚くお礼申し上げます。



快晴の下、園外散歩

静養室の拡張改修工事が完成しました

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

昨年度の梨ノ木診療所の新築移転にともない、従来の診療所の医務室機能は残し、狭かった静養室部分の拡張改修工事を実施しました。

新しくなった静養室は広く明るくなり、スタッフルームに近いという利便性を活かし、重篤な方や、感染症の疑いのある方の介護に使用します。ご利用対象者がいない場合には、面会室としてもご利用していただけます。

さらに、施設での終末期の介護の際には、ご家族の希望により複数名でも付き添っていただけるようになりました。また、久しぶりに枕を並べてゆっくりと話をしたい等のご希望がありましたら、ご利用者と共に宿泊していただけますので、お問い合わせ下さい。

☎0595-24-3030



静かにおすごしいただける部屋に改修

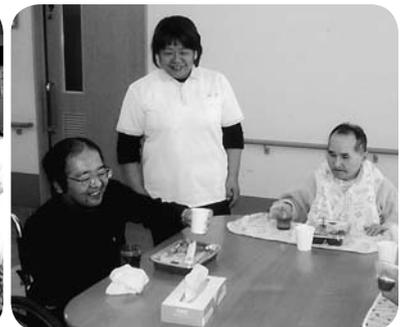
花よりすてきな笑顔

身体障害者支援施設梨丘園

「皆でお花見がしたい」というご利用者の声に応え、つつじ散策を計画しました。「喫茶」と「お弁当」の2コースから、みなさんに希望のコースを選んでいただきました。

「喫茶コース」の方々は、『しらすぎ公園』に出かけました。つつじや藤、さつきが香る小径を散策し、花飾りを作りました。青空の下で食べるケーキはおいしさ倍増、あつという間になりました。

「お弁当コース」の当日はあいにくの雨、公園散策の予定を変更して園内でお弁当を食べました。外に行けないのは残念でしたが乾杯し、あちらこちらで笑顔と会話の花が咲きました。両コースともに、花に負けないくらいの素敵な笑顔が満開になりました。



園内でお弁当をたのしむご利用者（「お弁当コース」の皆様）



ラウンジがコンサート会場に「プチ・バーバー」の皆様

去る五月二十日には、コーラスグループ「プチ・バーバー」と読み聞かせボランティア「はあと&はあと」の皆様にご来園いただきました。「故郷」あざみの歌」など、ご利用者がよくご存知の曲が美しいハーモニートンとなってラウンジに流れました。一緒に口ずさむ方もあり、一曲ごとに拍手がわき、まるでコンサートホールにいるようでした。



楽しいひとときをありがとうございます

デイサービスセンターなしのき

また、紙芝居とパネルシアターも大好評で、たくさんの方々の笑顔があふれました。



パネルシアターで「おむすびころりん」「はあと&はあと」の皆様

た。最後にはご利用者と職員一同からの拍手が込められた。続き、「楽しかった、また来てほしい」とのお声。今後、様々な催しを計画中で、次回ハモニカの生演奏を予定しています。

ほけんだより

ロコモティブシンドローム (ロコモ) について (その3)

前回は、ロコモは運動器の機能が衰える病気であることと、ロコモの特徴とロコモチェックの説明をいたしました。

運動器の機能が衰えるならば「その予防が出来るか」ということは誰もが考えることです。今回はその予防について説明いたします。

ロコモの症状やその程度はさまざまですが、どれくらい歩けるかによってその程度を判断します。例えば、屋外を15分以上続けて歩ける場合は「軽症」です。屋外は歩けないけれども、屋内は歩けるなら「中等症」です。つかまり立ちならできる、座ることならできるという場合には「重症」になります。

ロコモの症状の程度によりロコトレ（関節に過剰な負荷をかけずに骨を強くし、筋肉を鍛える）のやり方もちがいます。自分にあった安全な方法で、無理をせず、自分のペースで行ないましょう。食事直後の運動は避けましょう。痛みを感じた場合は運動を中止し、医師に相談しましょう。

ロコトレの代表的な運動を紹介します。

その① 開眼片脚立ち

片方の脚で、左右1分間ずつ立ちます。足は大きく上げる必要はありません。足は前に上げてよいでしょう。重症の方は、机に手をついて行ないます。物足りない方は、ほかの動作をとりいれます。

左右1分間ずつ1日3回行ないましょう。

その② スクワット

椅子に腰かけるように、お尻をゆっくり下ろします。お尻を軽く下ろすところから始めて、膝は曲がっても90度を超えないようにします。深呼吸するペースで5～6回くりかえします。これを1日3回行ないましょう。

痛みを感じた場合は、お尻を下ろし過ぎないようにしたり、机を支えに使ったりしてみてください。

介護を必要とせず、自立した生活ができる「健康寿命」を延ばすためにも日頃から予防を心がけましょう。また、「年だから」と諦めないことも大切です。

梨ノ木診療所 所長 医師 山崎 征治

共に歩んだ29年 …開園記念の集い…

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

新緑がまぶしい5月1日、第二梨ノ木園は29回目の開園記念日を迎えました。

園長の開園当時の懐かしい話を皮切りに記念行事が始まりました。続いて、大きなサイコロをご利用者お二人に仲良く振っていただき、出た目によって、開園の昭和56年以降のニュースや流行などの世相を発表しました。ご利用者が「あー、そんな事もあったなあ」と、懐かしく振り返っておられるのが印象的でした。



サイコロを振って次の話題に進みます

最後に皆さんのリクエストで、「リンゴの唄」を合唱し、たいへん盛り上がりしました。

来年は開園30年を迎えます。今後ともご利用者の皆様に安心して心豊かな生活を送っていただける施設づくりを心がけたいと思います。



自慢の手づくりこいのぼり

子どもの日が近づいてくると、子どもたちと一緒に五月人形を飾ります。五月人形がかぶっている兜に興味を持ち、さつそく新聞紙や包装紙で兜を折って遊びました。段飾りの中にこいのぼりを見つけ「こいのぼりを作りたい」「兜をうるこにしたらどうかな」とアイデアを出した子がいて、早速こいのぼりを作ることになりました。「尾びれと背びれもつけやな、こいのぼり泳げへん」「くちひげもあるで」などと、みんなで気づいたことを出し合い協力して作りました。

手作りこいのぼりが泳ぐ下で、ダンスやゲームあそびを楽しみ、こいのぼりに子

できたよみんなのこいのぼり
 ～健やかな成長を願って～
 花之木保育園

のどかな自然に囲まれて ～三田神社への遠足～ 三田保育園

5月21日、新緑の三田神社へ遠足に行きました。赤い鳥居をくぐって本殿の前に来ると「お正月にここへ来たことある」、「お祈りしたら願いごとかなうねんで」と、両手を合わせる子もいました。帰途、畑仕事をしているおじさんに「お宮さんへ行って来てん」と話しかけると「そうか良かったな。元気に大きくなりいや」と目を細めてくれました。

早苗が植えられた田んぼでは「あつ、おたまじゃくしとあめんぼうが追いかけてっしてる」「どっちが早いかな」と身を乗り出してながめ続けました。緑いっぱいの自然の中で、春を満喫した子どもたち。地域の方々の温かい心と豊かな自然に包まれて育っていることをうれしく思います。

今後も、自然と触れ合い、地域の方々との交流を通じて、豊かな感性と思いやりの心を育てていきたいと思ひます。



赤い欄干の橋を渡って帰路につきます



今にも泳ぎ出しそうです

どもたちの健やかな成長を願いました。

当園には、大きな桜の木が三本あり、その内の二本が染井吉野で、一本が大島桜です。今年も見事に咲きました。



「花垣の八重桜」がある花垣神社



花守庵でお花見をしました

八重桜」があり、地域の方々が大切に育てて下さっています。

また境内には、芭蕉が元禄三年に「一里はみな花守の子孫かや」と詠んだと言われ、江戸時代の後半に建てられた句碑があります。

かつて予野地区は、「花垣の庄」と言われていました。桜の花に特別の思いを寄せる人たちが、桜を愛でるように、健やかに育つ子どもたちを温かく見守って下さっています。

桜を愛する人たちに
 見守られて
 予野保育園

みんなあつまれ”ふれあいひろば”
—家族のきずなはふれあいから—

心身障害児療育施設かしのみ園

かしのみ園では、保護者が障がいの理解と子どもへの適切な関わりを研修する『ふれあい教室』を年間十数回開催しています。家族のきずなを療育の成果を期待できると、親子・兄弟・姉妹とのふれあいを大切にしています。

五月二十二日、上野東小学校体育館で「みんなあつまれ ふれあいひろば」を開催したところ、二十五組の家族と卒園児保護者など総勢百名余りの方々が集まりました。プログラムには療育保育の内容を取り入れた遊びを盛り込みました。家族が協力して長さの違う紙テープを集めつないだ競技「長いのだあれ」では、体育館が紙テープでいっぱいになりました。

毎年職員が大型絵本を手作りし



大丈夫、お父さんがついてるよ



大型絵本「おどります」を見る参加者



紙テープで家族のきずながつながりました

披露しています。子どもたちは絵本「おどります」が一ページめくられるたびに登場する動物と一緒に「メケメケフラフラ」と口ずさみ、子どもはもちろん、家族みんなの体が揺れ、大きな踊りの輪になりました。あるお父さんは「日頃母親まかせで子どもと接する機会が少ないが、今日は友だちや家族と一緒に遊ぶ様子が見られて良かったです。」とうれしそうでした。

療育保育には、家族の理解と協力が欠かせません。楽しい時間はあつという間に過ぎてしまい、家族のきずなが一層深まったひとときでした。

イチゴとサクランボがなる保育園

府中保育園

地域の方のご協力で敷地内に『なかよし農園』が開園して八年になります。昨年秋に植えたイチゴは四月には白い花を咲かせ、五月の中旬には赤く色づきました。農園の横の道を通って登園する子どもたちは、毎年収穫の日をとっても楽しみにしています。

いよいよ収穫の日、「白い花やつたのに赤い実になったな」「大きいと小さいイチゴくつついてる」「そつと取らなつぶれるよ」など、つぶやきながら一つ一つていねいに摘み取りました。このイチゴはジャムにして、サンディッチを作ります。



いちごがいっぱい



見事に実ったサクランボ

六月には、サクランボの収穫をします。つながったサクランボを見て「本物のサクランボの形はかわいいな」「早く食べたいな」と背伸びをして採る喜びは格別のようなようです。地域の方々に「協力いただいているイチゴとサクランボの栽培と収穫を通して一人ひとりの“食への関心”を育んでいきたいと思えます。



摘み取ったイチゴでジャム作り

心待ちにしていたバス旅行

―新車の”太陽号”に乗って― 障害者福祉サービス事業所かしの木ひろば

去る、五月二十五日にご利用者二十三名、ボランティア六名と職員十名の合計三十九名で桑名市にある「なばなの里」へ出かけました。四年ぶりの旅行とあって、みなさんは心待ちにしていました。

久しぶりに乗った三重県身体障害者総合福祉センターのバス「太陽号」は新車で乗り心地抜群です。車内では恒例のカラオケ大会が始まり十八番の歌で大変盛り上がりしました。

出発時には雨模様でしたがみなさんの願いが届いたのか、バスを降りると汗ばむくらいの陽気になり、「わあー！うまい」と晴れてくれたなあ」と歓声があがりました。

雨上がりで花の美しさも映え「ルピナスの花がきれいやなあ」「このバラ好きやわあ」と愛でながらゆつくりと散策しました。お気に入りの花の前で記念撮影をし、ペゴニアのア

イスクリームを食べたり、橋の上から鯉に餌をあげたりして楽しみました。

もう一つの楽しみは食事です。園内マップ片手



ルピナスが咲き誇る前で



「なばなの里」で家族へのお土産選び



にそれぞれのグループで相談し、お目当てのレストランを探しました。焼き立てパンが出るレストランは人気が集まりました。イタリ

アン、とんかつ、ハンバーグのレストランなども好評で、地ビールで「乾杯！」と楽しんだ方もいました。帰りに「家族へのお土産」と言いながら大きな袋をさげ、満足そうにバスに乗り込む姿が印象的でした。車中では早速「来年はどこ行くの？」と気の早い話も出てみんなで大笑いしました。

長年支援していただいているボランティアの皆さんの、細やかな心遣いのおかげで、楽しいバス旅行になりました。

田山さんの長いお付き合い

―これからもよろしく― かしの木ひろば

「おはようございます。今日も一緒にさせてもらいます。」と聞き慣れた声といつもの笑顔でご利用者に声をかけられて活動室へ入って来られる田山紗知子さん。ボランティア講座を初めて受講されたのは平成九年です。その翌年から毎週火曜日に来園され一緒に昼食を食べ、得意の手芸を活かし、創作活動や織の小物作りをしてくれます。

現在は月一回のお茶の会や散歩、外出、イベントの際に介助や話し相手と様々な関わりをして下さいます。十三年にわたってのご利用者とお付き合いを通じて、障がい者の良き理解者でありひろばにとってはなくてはならない存在です。これからもよろしくお願ひします。



ボランティア講座のパネリストとして話される田山さん

音訳ボランティア養成講習会

上野点字図書館

視覚障がい者の福祉や文化の向上を目的として、録音図書製作に携わっていただく音訳ボランティアの養成講習会を、今年度も六月九日から実施しています。

音訳とは、活字をその通りに音声に置き換える作業です。聞き手に聞き取りやすく、正確に伝えるために必要な専門的な技術等を学びます。近年は、パソコンを使っている作業も増えていきます。ご利用者には、CDでの提供が主流ですが、四月からは視覚障がい者情報総合ネットワーク「サピエ」が稼動し、インターネットを通じて音声データを提供できる環境も整備されました。

技術の進歩により多様化するニーズにお応えするためにも、この講習会から一人でも多くの方が、音訳者として活躍いただけるよう願っています。



音訳ボランティア養成講習会開講式

特集

地域の皆様に支えられて

小誌第20号発行にともない、私たちが何よりも大切にしている地域とのつながりを、ほんの一部ですが特集いたしました。

当法人を支えて下さっているたくさんの方々、この会報を読んで下さっている全ての方に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

「寺町の方々に感謝」 上野点字図書館
寺町の自治会長さんを中心に寺町老人会の方々が、上野点字図書館の前にある花壇の南側の日当たりの良い所に花々を、東側に庭木を植えて下さいました。寺町老人会の方々は、朝早くから花壇に水を遣つてくれたり、こまめに植え替えて下さっています。殺風景だった花壇に色とりどりの季節の花々が咲き、寺町通りを通行する人たちの目を楽しませてくれています。



防団による放水訓練が行なわれます。有事の際、当施設で生活されている約一六〇名のご利用者全員に、無事に避難していただくには、地域の皆様の協力が無ければ非常に困難です。ご利用者の安全を守るため、これからも合同訓練を続けてまいります。



「合同避難訓練」 梨ノ木園・第一梨ノ木園・梨ノ木園
二十年以上前から毎年、地元消防団と伊賀市消防本部のご協力のもと、合同避難訓練を実施しています。あらゆる場所からの火災を想定し、きびきびとした動きの消防団員と、それを参考にする職員が連携して避難誘導訓練を行ない、最後に消防団による放水訓練が行なわれます。



「伝統文化に触れて」 府中保育園
茶道と華道の師範でいらつしやる角田成甫先生のご好意で、お花の会を楽しませていただいたり九年度目を迎えます。子どもたちは、花にも命があることを教わり、草花を大切に扱おうになりました。保



「上野徳居町・上野福居町老人クラブとの交流」 曙保育園
年三回、地域の老人クラブと交流会を実施しています。子どもたちは回を重ねるたびに「一緒に遊んで」と、お年寄りの手をつなぎに行ったり、話しかけたりできるようになってきました。お手玉・めんこ・こままわしなどの伝承あそびを教えていただき一緒に楽しんでいただきます。また歌や遊戯を観ていただき、「一年でこんなに大きくなるんだね」と子どもたちの成長を喜んでもらっています。



「秋まつり参加」 古山保育園
毎年十月二十九日に、「田守神社」で秋季例大祭が行なわれます。園児が保護者とともに、御渡神事の稚児神輿を引きまします。法被姿の子どもたちが「ワッショイワッショイ」と威勢よく声をかけると、沿道の方々も囃して盛り上げてくれます。



「徳平おじいさんありがとう」 長田保育園
当保育園の一角に「徳平文庫」があります。この文庫は、当法人の首養護老人ホーム梨ノ木園で生活されている山口徳平さんが、好きなタバコをやめて「地元の子どもたちに絵本を」との思いで、長年にわたり贈って下さったものです。今では、二百三十冊になり、親子がふれあいを楽しむかけがえのない絵本になっています。毎年、徳平おじいさんをお招きして、ありがたうの会を開き、楽しいひとときを過ごしています。この他曙保育園にも「徳平文庫」があります。



「やさしいまなざしに包まれて」 中瀬城東保育園
中瀬地区老人クラブの方々が、年間五回来園され、さつま芋の苗植え、収穫した野菜を使つてのクッキングなど、子どもたちの心に寄り添った口調で語りかけて下さいます。交流の回を重ねるごとに子どもたちは、お年寄りの皆さんの背中や腕に抱きつき、いつもと違う表情が多く見られます。世代間の交流を通して人と触れあう心地良さで、豊かな感性が育つようになると願っています。



育室には花瓶に見立てた花を生けたプリンカップがたくさん並んでいます。日本の伝統文化に触れながら、植物を慈しむ心が育つています。

皆様には心からお
祝いを申し上げます
とともに、多年のご
奉仕に深く感謝を申
上げます。



生け花講師 田中美代子さん

おおよび盲養護老人ホーム梨ノ木園ご利用者への読み聞かせをして下さっています。

音訳・校正を中心に、伊賀市広報や雑誌の音訳および地域の小中学校へ点字の指導に行つて下さっています。三村さんは活動歴二十年で、蔵書の音訳・校正を中心に、名張市広報の点訳や、視覚に障がいを持った学生の教科書や参考書の点訳および地域の小中学校へ点字の指導に行つて下さっています。三村さんは活動歴二十年で、蔵書の音訳・校正を中心に、伊賀市広報や雑誌の音訳および盲養護老人ホーム梨ノ木園ご利用者への読み聞かせをして下さっています。

がら、見事な作品を仕上げられます。

卯野さんは活動歴十五年です。蔵書の点訳・校正を中心に、名張市広報の点訳や、視覚に障がいを持った学生の教科書や参考書の点訳および地域の小中学校へ点字の指導に行つて下さっています。三村さんは活動歴二十年で、蔵書の音訳・校正を中心に、伊賀市広報や雑誌の音訳および盲養護老人ホーム梨ノ木園ご利用者への読み聞かせをして下さっています。

中美代子さん、上野点字図書館の点訳ボランティアの卯野径子さんと、音訳ボランティアの三村佐弥さんが奉仕者表彰を受賞されました。

生け花講師の田中さんは、昭和五十八年から月一回のクラブ活動に講師として来園して下さいます。クラブ員は田中さんからの巧みなアドバイスを受け、全身で季節の花々を感じながら、見事な作品を仕上げられます。



音訳ボランティア 三村佐弥さん
点訳ボランティア 卯野径子さん

去る、六月三日・四日の両日、福井県で開催された社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会主催の第五十八回全国盲人福祉施設大会において、梨ノ木園の生け花講師である田中さん、音訳ボランティアの三村さん、点訳ボランティアの卯野さんが奉仕者表彰を受賞されました。

おめでとうございます 日本盲人社会福祉施設協議会 奉仕者表彰受賞

新任職員の紹介

当法人主催の新任職員研修を終えた直後、26名のフレッシュな声を聞きました。希望と決意を胸に、それぞれの施設でがんばるルーキーをよろしく願いいたします。

私も子ども触れ合うなかで笑顔の時間が増える。そんな保育士を目指していきたい。
【曙保育園】U・H

他者から学び、得ようとする姿勢で自ら手を差し伸べることができる福祉人を目指す。
【陸保育園】M・A

利用者の方々に満足していただけるよう、仕事一つ一つに尽力していきたいと思ひます。
【三田保育園】Y・A

笑顔と健康を大切に、子どもの目線になって考えられる保育士を目指して頑張ります。
【中瀬城東保育園】F・I

社会人として、保育士として自覚をしっかりと持ち、後悔のない日々を送りたいです。
【予野保育園】I・A

子ども達や保護者の方々にいつも笑顔と絶やさずことのない、明るい保育士になりたい。
【長田保育園】S・T

何事も積極的に取り組み、笑顔と感謝の気持ちを忘れない。そして自分自身も楽しむ。
【古山保育園】A・Y

常に向上心を持ち、日々学び、日々前進できるよう努力をしていきたいです。
【みどり保育園】T・A

なんでも学び吸収しながら、毎日笑顔と絶やさず、頑張りたいです。
【みどり保育園】S・A

素直な気持ちを忘れず、先輩から学んだことを保育に生かし成長していきたいです。
【みどり保育園】T・Y

周囲の方々への感謝を忘れることなく、笑顔と素直な気持ちで日々成長していきたい。
【ひかり保育園】Y・N

“健康第一”規則正しい生活を心がけ、心身共に健康で、笑顔と忘れずがんばります。
【みどり第二保育園】I・M

資質の向上に努め、子ども達や保護者の方から信頼してもらえる保育士になりたいです。
【みどり第二保育園】K・M

周りの方々に支えて頂いている事に感謝する事を忘れず、笑顔溢れる保育士でありたいです。
【府中保育園】S・Y

辛い時も楽しい時も初心を忘れずに、一つ一つの仕事に誇りを持って働いていきます。
【ゆめが丘保育所】I・Y

わからない事ばかりで思うように仕事が進みませんが、いつか社会福祉に貢献したいです。
【ゆめが丘保育所】K・S

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。何事も積極的に尋ねて成長していきたいと思ひます。
【ゆめが丘保育所】I・K

まだまだ目の前の仕事を覚える作業で精一杯。早く仕事をこなせるように努力したいです。
【梨ノ木園】O・T

小さな事にも気付ける職員になれるよう、通り過ぎない生活を心がけたいです。
【梨ノ木園】M・Y

仕事に愛情を持てれば、仕事には魂が入る。魂が入るから人の心を動かせる仕事になる。
【梨ノ木園】Y・S

何事にも進んでチャレンジする気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいきたいと思ひます。
【第二梨ノ木園】M・M

座右の銘は「努力に勝る物はなし」です。常に目標を持ち努力し続けます。
【第二梨ノ木園】Y・A

私の抱負は「笑顔」です。常に笑顔で明るく仕事をがんばります。
【第二梨ノ木園】M・H

利用者が安心して施設を利用できるように正確かつ温かみをもった支援がしたいです。
【第二梨ノ木園】S・A

たくさんの事を学び、経験し、失敗を忘れずバネにし、努力していきたいです。
【梨丘園】K・T

初心を忘れず、毎日一歩ずつ前進していく。
【梨丘園】T・A



お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

(平成22年3月～平成22年5月)

《個人》—敬称略・五十音順—

《団体》—敬称略・順不同—

- 井岡 昭、稲森千鶴子、稲森 光子、稲森 律子、上田 一、上野千代子、太田 久子、岡田 茂樹、岡森 金一、岡森 泰造、岡森眞理子、小川 秀貴、奥田 英夫、奥田やえ子、角谷 信昭、門田 進、北泉 優子、葛岡エミ子、小林ふし智、佐々木京子、清水 栄子、清水みどり、杉本ちえみ、角田 成子、角田 充代、竹島 和美、田中美代子、玉台 正和、田矢千栄子、田山紗知子、塚本 勇夫、塚本 初子、辻本 虎雄、戸高 久昭、豊岡 百子、豊田 貴、中川 定子、中森 勇、中森美代子、中森 洋子、中山 洋美、西口 勇雄、西田 誠、西出 成子、藤井 充子、藤島 千代、藤森 直美、藤森 三重、前川 悟、前川 光枝、前田 修、前田 洋、松生みね子、松田 玉江、松田 初子、松田 雅子、南出 寛三、宮土 和子、本村幸四郎、森 令子、森岡 佑子、森下 弘子、森田 満枝、森中 一美、矢口キヌ代、矢倉 昌、保田耕三郎、山口 義美、山田 龍男、上野京沢奉仕クルーブあひ、上野音訳グループしのび、上野音訳グループあかり、名張京沢グループあかり、名張音訳グループこたま、伊賀マシックス倶楽部、絵手紙いろは、絵本ボランティア「もこもこ」、カマキリ部隊、蕨門ホール「語り部塾」、はあと&はあと、プチ・パーパー、ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジュース、伊賀市消防本部、伊賀市消防団西部分団 長田部、猪田部、伊賀市上野視覚障害者福祉会、しんごき地区主任児童委員、寺町自治会、寺町老人会、中瀬老人クラブ連合会、三重県共同募金会、ゆめが丘地区民生委員、伊賀地区交通安全協会女性部会、伊賀市上野視覚障害者福祉会、チャーチル会上野、黒住教上野中教会、平井神社、日蓮宗法喜寺上野支院安立寺、小川整備、小川モーターズ、西尾ソシキ、日本フライン、人形のまるよし

～平成21年度 当法人の決算諸表(公益事業会計含む)～

資金収支計算書(法人全体)
平成21年4月1日～平成22年3月31日

事業活動収支計算書(法人全体)
平成21年4月1日～平成22年3月31日

貸借対照表(法人全体)
平成21年4月1日～平成22年3月31日

勘定科目	決算額
介護保険収入	385,314
自立支援費収入	193,036
利用料収入	22,078
措置費収入	188,962
運営費収入	1,030,855
運的契約利用料収入	4,463
その他の事業費収入	62,179
経常経費補助金収入	223,915
寄附金収入	9,988
雑収入	24,539
借入金利息補助金収入	288
受取利息配当金収入	294
会計単位間繰入金収入	6,100
経理区分間繰入金収入	54,500
経常収入計	2,206,511
人件費支出	1,546,987
事務費支出	174,230
事業費支出	293,530
借入金利息支出	866
会計単位間繰入金支出	6,100
経理区分間繰入金支出	54,500
利用者負担減免額	497
経常支出計	2,076,710
【経常活動資金収支差額】	129,801
施設整備等補助金収入	13,530
施設整備等収入計	13,530
固定資産取得支出	48,862
施設整備等支出計	48,862
【施設整備資金収支差額】	-35,332
借入金元金償還補助金収入	8,000
積入金元金取崩収入	6,836
財務収入計	14,836
借入金元金償還支出	11,504
積立預金積立支出	78,213
流動資産評価減資金減少額	34
財務支出計	89,751
【財務活動資金収支差額】	-74,915
<当期資金収支差額合計>	19,554
[前期末支払資金残高]	244,940
当期末支払資金残高	264,494

勘定科目	決算額
介護保険収入	385,314
自立支援費収入	193,036
利用料収入	22,078
措置費収入	188,962
運営費収入	1,030,855
運的契約利用料収入	4,463
その他の事業費収入	62,179
経常経費補助金収入	223,915
寄附金収入	9,988
雑収入	24,539
引当金戻入	139,451
借入金元金償還補助金収入	8,000
国庫補助金等特種取崩額	70,170
事業活動収入計	2,362,950
人件費支出	1,545,298
事務費支出	174,230
事業費支出	293,530
減価償却費	126,683
徴収不能額	34
利用者負担減免額	497
引当金繰入	139,243
事業活動支出計	2,279,515
【事業活動収支差額】	83,435
借入金利息補助金収入	288
受取利息配当金収入	294
会計単位間繰入金収入	6,100
経理区分間繰入金収入	54,500
事業活動外収入計	61,182
借入金利息支出	866
会計単位間繰入金支出	6,100
経理区分間繰入金支出	54,500
事業活動外支出計	61,466
【事業活動外収支差額】	-284
【経常収支差額】	83,151
施設整備等補助金収入	13,530
その他の収入(事業活動)	268,319
特別収入	281,849
固定資産売却損処分損	310
国庫特別積立金積立額	13,530
その他の支出(事業活動)	267,983
特別支出	281,823
【特別収支差額】	26
【当期活動収支差額】	83,177
[前期繰越活動収支差額]	838,095
【当期未繰越活動収支差額】	921,272
その他の積立金取崩額	6,836
その他の積立金積立額	78,213
【次期繰越活動収支差額】	849,895

勘定科目	決算額
流動資産	357,836
現金預金	123,519
未収金	233,728
立替金	61
前払金	508
仮払金	20
固定資産	2,658,754
固定資産(基本財産)	1,760,016
建物	1,572,560
土地	187,456
固定資産(その他固定資産)	898,738
建物	153
構築物	29,182
機械及び装置	23,621
車輛運搬具	9,799
器具及び備品	96,591
ソフトウェア	4,175
権利	899
投資有価証券	11
措置施設繰越特定預金	97,772
建設積立預金	35,000
償還積立預金	5,000
人件費積立預金	73,700
修繕積立預金	171,320
備品等購入積立預金	44,703
保育所施設整備整備積預金	102,300
退職共済掛金	143,512
その他積立預金	61,000
資産の部合計	3,016,590
流動負債	193,300
未払金	78,317
預り金	2,961
仮受金	12,064
賞与引当金	99,958
固定負債	178,628
設備資金借入金	35,116
退職給付引当金	143,512
負債の部合計	371,928
純資産の部	111,313
基本金	111,313
国庫補助金特別積立金	1,092,659
その他の積立金	590,795
次期繰越活動収支差額	849,895
(うち当期活動収支差額)	83,177
純資産の部合計	2,644,662
負債及び純資産の部合計	3,016,590

編集後記

七月に入り、長かった梅雨も明け本格的な夏がやってきました。世間は相変わらず不透明な情勢が続いております。私たちもすべて人ごととは思わず、一人ひとりが当事者意識をしっかりと持ち、職務を全うしたいと思えます。

今回で会報も節目の第二十号を発行することができました。これも当法人がたくさんの地域の方々に支えられているおかげであると感謝いたします。

二十号では「地域の皆様に支えられて」を特集いたしました。今後とも、皆様の温かいご意見、ご感想をいただければ幸いです。

(編集子N)

施設案内

みどり第二保育園

「友だちとあそび共に育ちまおう」

みどり第二保育園は、市街地南部、明るく閑静な住宅地にあります。昭和四十八年に上野市（現伊賀市）立養護老人ホーム恒風寮の跡地に新築開園しました。当園は、子育てと就労の両立支援を図るため延長保育事業、一時預かり事業、放課後児童健全育成事業などを実施しています。また、在宅で子育てをしている家庭へ子育て支援事業「コンニチニソバ」を開催し、遊び場の提供や育児相談を実施し、子育て中の保護者が楽しく子育てができるよう支援を行っています。



みどり色に塗り替えられ美しくなった園舎

近年、きょうだい関係や地域の子どもたちのつながりが希薄になっていきます。そこで当園では、年齢別保育とともに三・四・五歳児のたてわり保育を実施しています。大きい子は小さい子の世話をすること、思いやりやいたわりの心が育つよつです。また小さい子は大きい子の



広い園庭で遊ぶ子どもたち

姿を見ても、自分も同じようにやってみようという気持ちを持ち、自信へとつながっていくことができます。時には、

り合い、けんかをしながらも助け合えるという異年齢の関係が、きょうだいのような関係であってほしいと願っています。

平成二十一年十二月から三月にかけて、園舎の耐震補強工事を行いました。工事に伴わない園名と同じみどり色に塗り替えられた外壁は、園庭の桜や藤の花と調和しています。保護者の方や地域の方々も「すてきな保育園になりましたね」と喜んでくださっています。

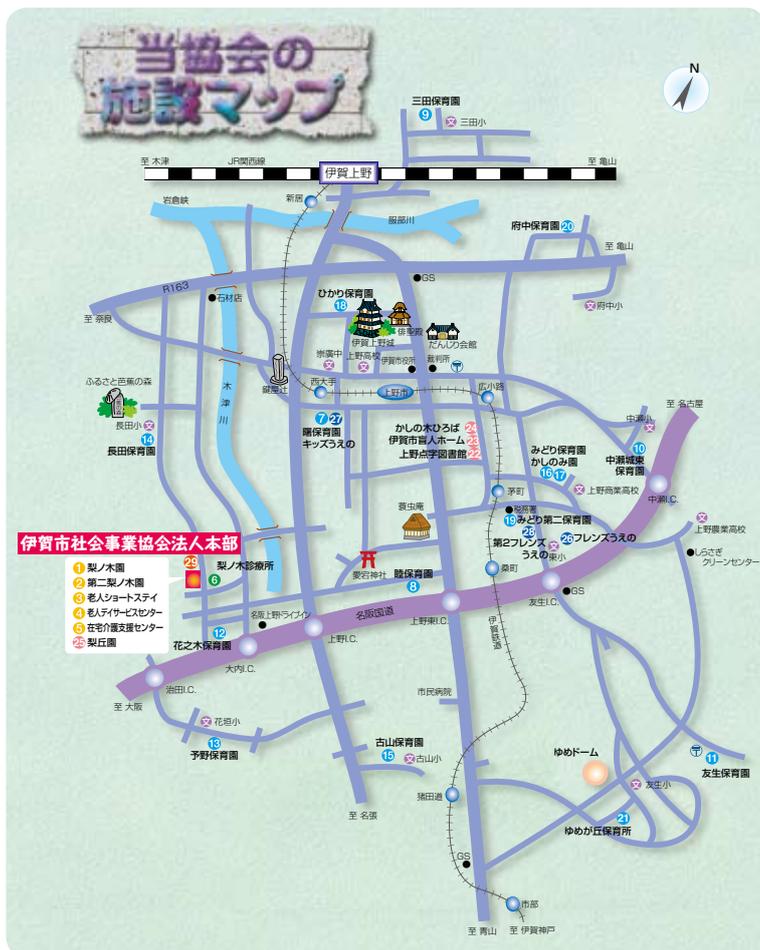
今後とも地域の子育て支援施設としての役割を担い、子どもたち一人ひとりが健康で安全に過ごせるよう、日々努力していきたいと思っております。

平成22年度 心身障がい児者ボランティア講座 受講者募集のお知らせ

開催日	内容・講師
6月26日(土)	開講式 挨拶 伊賀市健康福祉部障がい福祉課 課長 増田政美氏 講演 「開講にあたって」 講師 伊賀市社会事業協会 理事長 西岡時彦 かしのみ園 園長 森田展代 かしの木ひろば 園長 稲森美智子 梨丘園 副園長 楠原久美子
7月24日(土)	講演 「ボランティア活動とは」 講師 皇學館大学 社会福祉学部 教授 守本友美氏
8月28日(土)	講演と実技 「車イス体験」 講師 三重県身体障害者総合福祉センター 作業療法士 橋本年代氏
9月22日(水) 9月23日(木)	ボランティア体験 梨丘園 かしの木ひろば 担当 梨丘園 副園長 楠原久美子 かしの木ひろば 園長 稲森美智子
10月16日(土)	講演 「ユニバーサルデザインについて」 講師 静岡英和学院大学人間社会学部 地域福祉学科 (元身障センター職員) 准教授 白山靖彦氏
11月27日(土)	見学 社会福祉法人青葉仁会 知的障害者入所授産施設あおはにの家 知的障害者入所更正施設あおはに 場所 奈良市柮ノ川町50番地1
1月22日(土)	講演 「ボランティアをやるにあたって」 講師 皇學館大学 社会福祉学部 教授 守本友美氏
2月26日(土)	閉講式挨拶 伊賀市社会事業協会 理事長 西岡時彦 座談会 かしの木ひろば 園長 稲森美智子 ボランティア講座を終えて かしのみ園 園長 森田展代

会場：かしの木ひろば他 時間：午前10時～12時（一部変更あり）

～お問合せ・お申込み～ かしの木ひろば 伊賀市上野寺町1184-2
TEL/FAX 0595-21-2745



☆この会報に掲載した個人情報は、ご本人もしくはご家族の承諾をいただいております。